

世界が進むチカラになる。



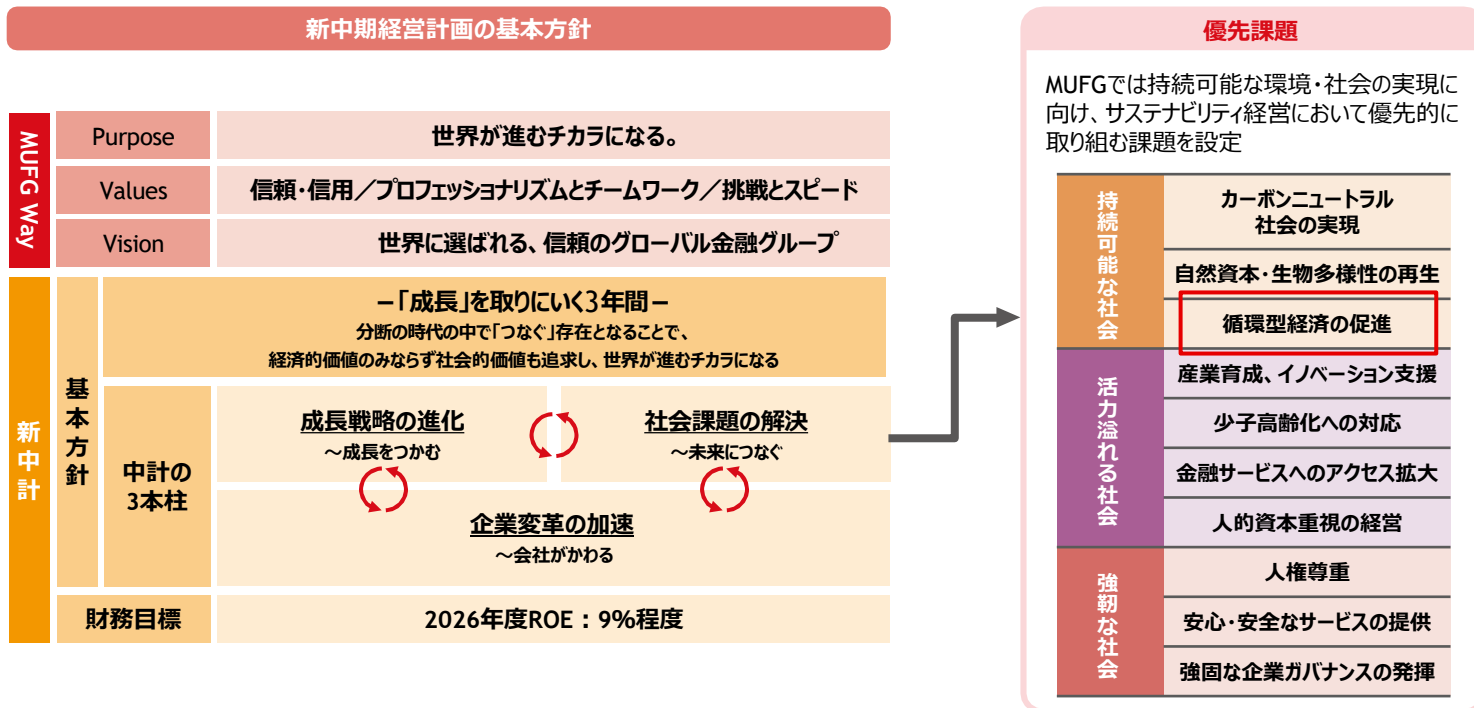
# MUFGの循環型社会形成に向けた取組み紹介

2024年8月

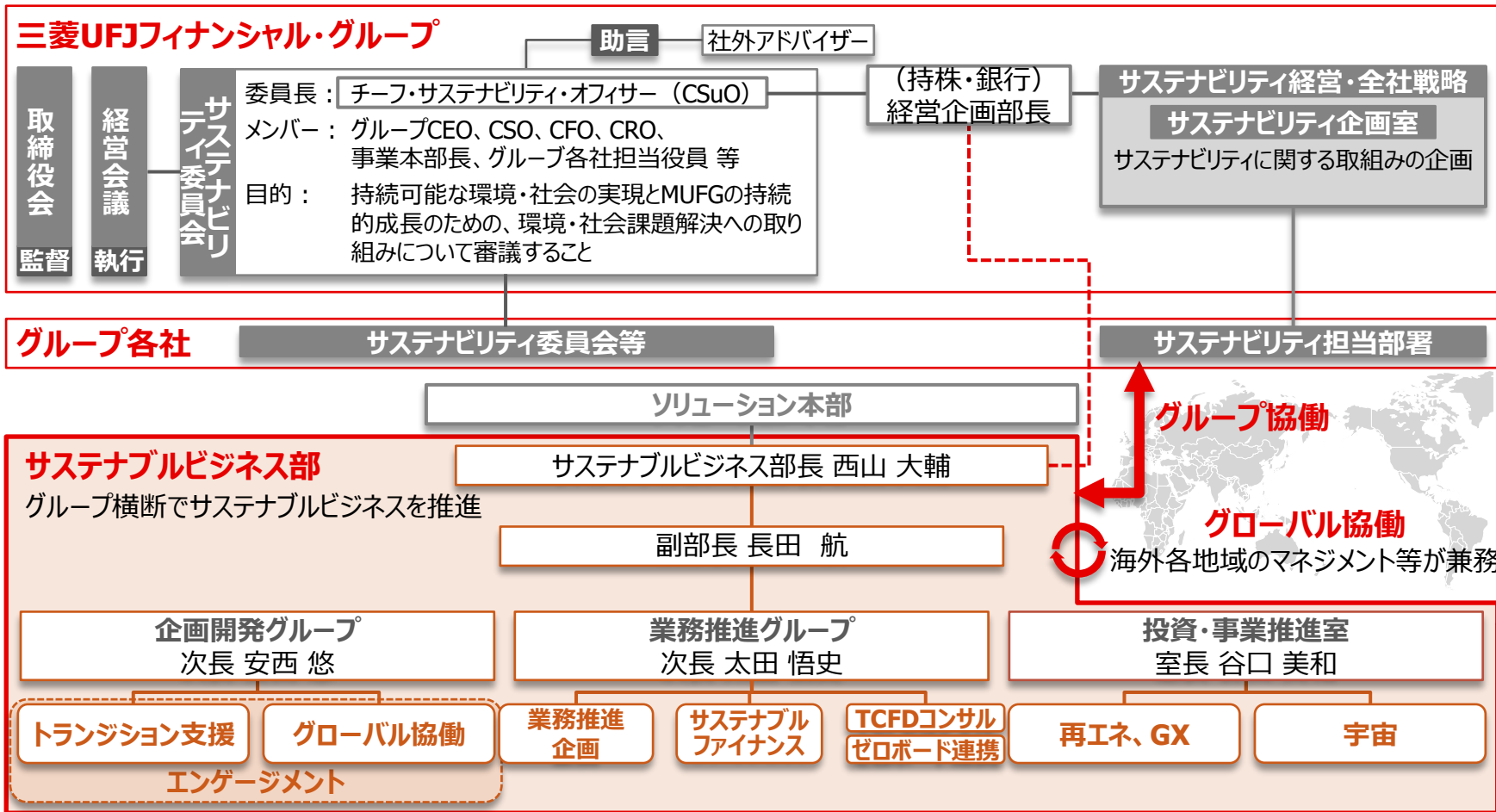
三菱UFJ銀行

# 新中期経営計画における位置づけ

- 2024年度からの3年間を計画期間とする中期経営計画がスタートしました。MUFGは、社会課題解決への貢献を経営戦略と一体化させ、これを中計の3本柱の1つと位置づけ、取り組みを一層強化していきます
- MUFGでは、持続可能な環境・社会の実現に向け、優先的に取り組むサステナビリティ課題を設定しています。「**循環型経済の促進**」はその中の1つに位置づけられています



# MUFGにおけるサステナブルビジネス推進体制

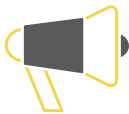


Section1: トランジション白書の取組み

Section2: 個別事例

# トランジション白書振り返りと欧米白書ツアー

## 白書の メッセージ



2022年10月発刊



## トランジション白書 1.0

- カーボンニュートラル(CN)への道すじは各国の**地域特性に応じて異なる**
- 個別セクター切り出しではなく**産業連関(Interdependency)**を考慮してレバーを認定する必要

2023年9月発刊



## トランジション白書 2.0

- 白書1.0を踏まえ、「**電気と熱**」領域にてCN実現の鍵を握る**技術リスト**を取りまとめ(「電気と熱」は日本のGHG排出量の5割を占める)
- 各技術の日本における必要性や実装の**進捗を発信**



## 欧米白書 ツアー



## EU/加盟国政府 等と面談

- 欧州委員会
- 仏国 政策当局
- 独国 政策当局
- 国際機関「IEA」

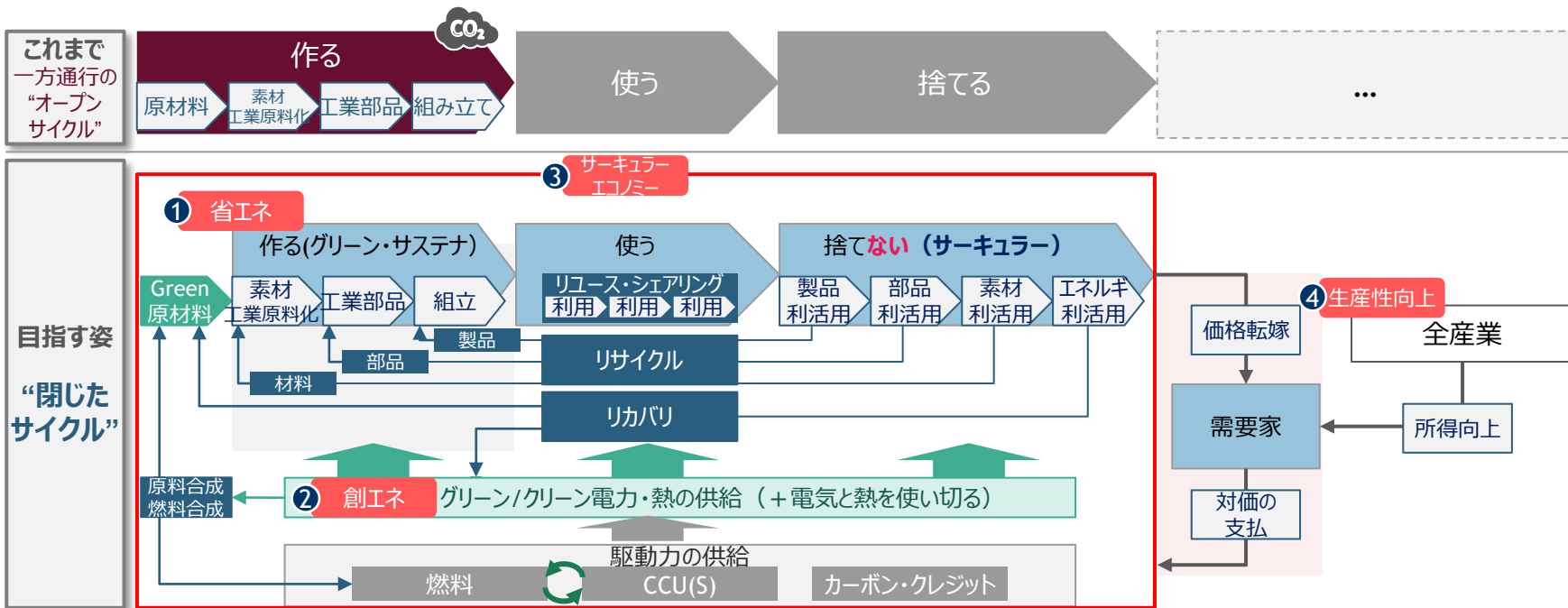


## 米国政府主要機関 等と面談

- 財務省、商務部
- 大統領特別補佐官
- 証券取引委員会
- 多国間投資保証機関

# トランジション白書2.0（2023年）：日本型循環型社会の高度化

省エネ/生産性改善、モノを捨てずに大切に使う(=循環社会)、新たなエネルギー源の可能性を追求、の基本動作継続/強化を通じ、CNにより今後押し上げられることが想定されるコストと向き合っていく必要がある



# トランジション白書2.0 : 「日本型循環型社会」高度化のための4つのカギ



省エネ

エネルギー使用側での徹底した効率改善/高度化を通じ、消費の無用な膨らみを抑制



創エネ

国内創エネ/海外連携を進める事を通じて、国内産のグリーン/クリーン電力の発展を追及



サーキュラーエコノミー

循環モデルを構築して、日本の産業競争力強化に繋げる



生産性向上

所得改善により価格転嫁を実現可能な水準まで引き上げ

Section1: トランジション白書の取組み

Section2: 個別事例



# 循環型社会の形成に向けた取組み

## 廃棄物のリサイクル

- MUFGの国内拠点：廃棄物のリサイクル率目標を90%以上に設定
  - 2022年度銀行本部ビル（東名阪）における紙類リサイクル率100%を達成
  - 銀行本部ビル（東京）では厨房ごみのリサイクルも実施、2022年度の廃棄物リサイクル率は90%超（94.9%）



限りある資源を大切にしよう！

## 紙のリデュース・リユース・リサイクル

- リデュース：印刷枚数の見える化、スマートワーク推進（モニターへの資料投影等）、通帳の電子化
- リユース/リサイクル：銀行本館と池尻ビルにおいて、紙をリサイクルシトiletトペーパーとして各ビルで再利用
- リサイクル：2022年度に銀行本部ビル（東名阪）において、リサイクル率100%を達成



## プラスチックのリデュース・リユース・リサイクル+リニューアブル

- リデュース：従業員向けのテナントやカフェにおける化石資源由来のストロー配布廃止の推奨、カードレス取引サービスの導入
- リユース：プラスチック製等の使用済み文房具の収集・再配布
- リサイクル：ペットボトル専用ゴミ箱を設置、2022年度には銀行本部ビル（東名阪）においてペットボトルリサイクル率100%を達成
- リニューアブル<sup>1</sup>：ニコスにおいて会員情報誌のラッピングフィルムにバイオマスプラスチックを採用

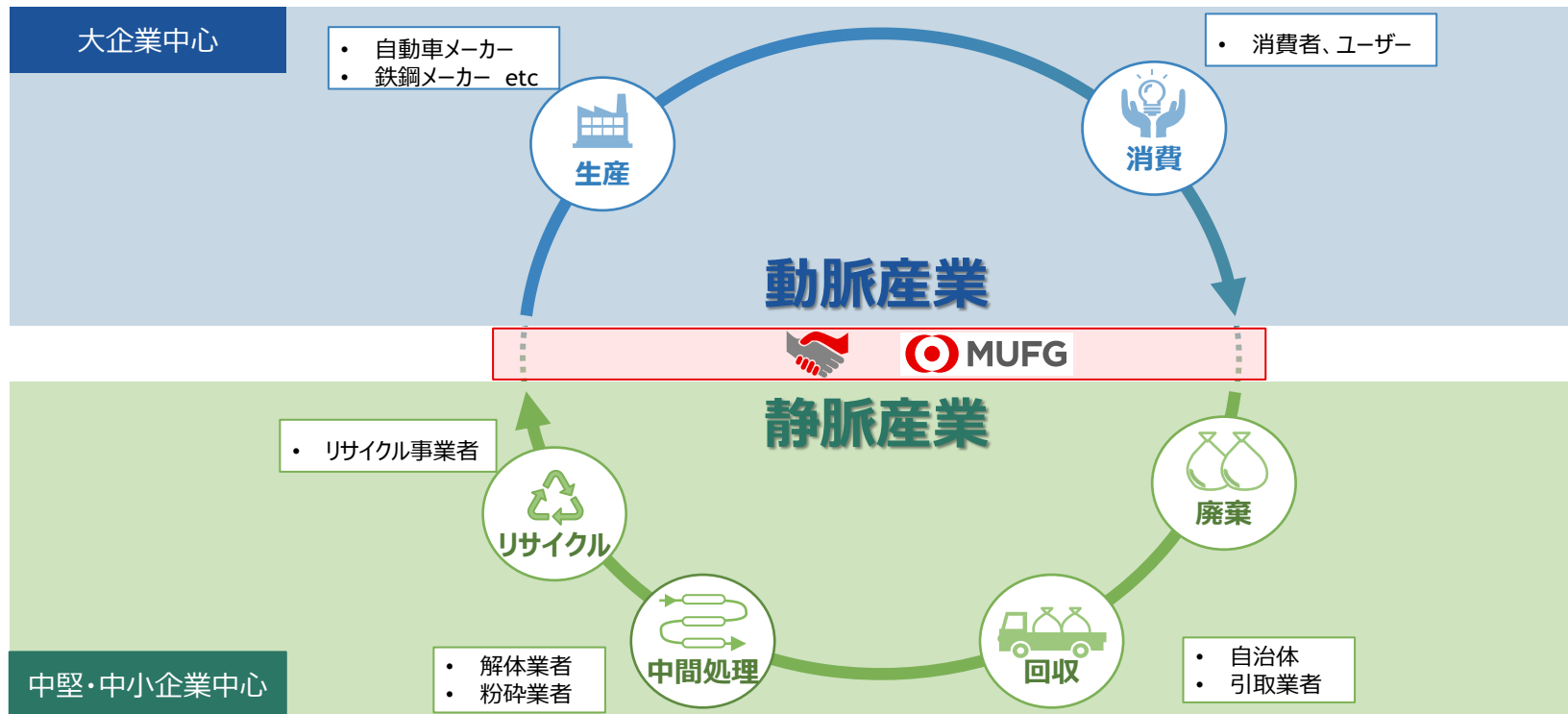


1. 紙や植物由来プラスチック等の再生可能資源への代替

Source: MUFG HP(<https://www.mufg.jp/csr/environment/tcfd/strategy/05/index.html>)

# 「動脈」産業と「静脈」産業

日本の循環社会を高度化するには、動脈・静脈産業の連関が必要不可欠



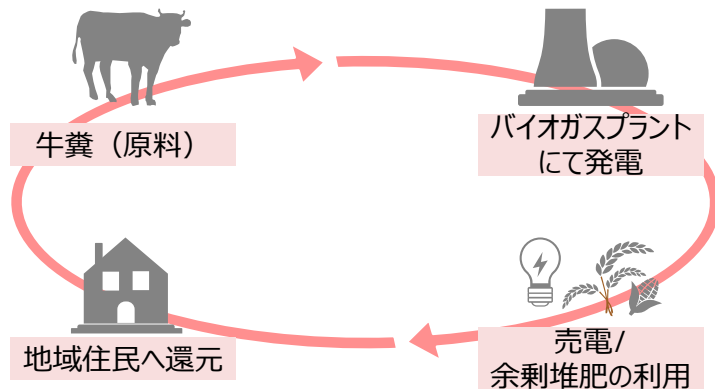
# 【個別事例①】岡山県バイオガス発電グリーンローン案件

## 概要／意義

- 岡山県の笠岡湾干拓地では約1万頭もの牛が飼育されており、**大量の牛糞処理並びに臭気軽減が地域課題**
- 当行は、上記課題解決に資する事業として、かぶとバイオファーム合同会社との間で、**牛糞を原料としたバイオガス発電所建設を資金使途とするグリーンローン**を契約
- 上記バイオガス発電事業を運営することで、再生可能エネルギー発電による**SDGs貢献、地域資源循環、地域課題解決を図る**
- なお、**牛糞を原料とするバイオガス発電所向け融資としては国内初のグリーンローン案件**であり、日本格付研究所（JCR）より、最上位の「Green 1 (g1/m1) <sup>1)</sup>」の評価を受領

## ローン概要

契約締結日	2022年7月26日
借入人	かぶとバイオファーム合同会社
アレンジャー/エージェント	三菱UFJ銀行
組成金額	35億円
資金使途	バイオガス発電所建設資金
参加行	徳島大正銀行、みなと銀行、紀陽銀行、中国銀行、笠岡信用組合



1. 総合評価：Green 1、グリーン性評価（資金使途）：g1、管理・運営・透明性評価：m1。総合評価はグリーン性評価と管理・運営・透明性評価に基づき決定

# 【個別事例②】愛知県バイオ燃料・SAF製造プラント向けグリーンローン案件

## 概要・意義

- レボインターナショナルは、廃食用油を主としたリサイクル事業を通じ、国内におけるバイオ燃料のリーディングカンパニーとして、バイオ燃料市場の拡大、国内でのバイオ燃料の認知向上・利用促進に向けた事業を推進
- 愛知県田原市に第2号のバイオディーゼル燃料及びバイオジェット燃料（SAF）の製造プラントを新設するに当たり、**国内初となるバイオ燃料セクターにおけるグリーンローンでの調達**を実施
- 本ローンは、**本邦初となるバイオ燃料・SAF製造に係るグリーンローン案件**であり、格付投資情報センター（R&I）より、グリーンローン原則におけるグリーンプロジェクトとして認証を取得
- 当行はアレンジャーとして、**今後の国産SAFの普及に向けた取組みに対しファイナンスを通じた支援**を実施

## ローンの概要

契約締結日	2023年5月26日
借入人	レボインターナショナル
アレンジャー/エージェント	三菱UFJ銀行
コ・アレンジャー	京都信用金庫
金額	22.23億円
資金用途	バイオディーゼル燃料・SAF製造プラント建設資金

## レボインターナショナルのサステナビリティへの取組み



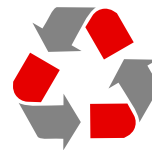
国内最大の生産能力 日量30,000L

- ・ 国内最大のバイオディーゼル燃料化プラント



使用済み食用油の再資源化率98.5%

- ・ 98.5%までバイオディーゼル燃料化
- ・ 無駄の少ない効率的なリサイクル



副生グリセリンの再利用率100%

- ・ 工場ではボイラー燃料として副生グリセリンを再利用

## 【個別事例③】当行社員食堂の廃食油を原料としたSAF製造

- 当行は、日揮ホールディングス(株)、(株)レボインターナショナル、合同会社SAFFAIRE SKY ENERGYの3社と廃食用油の継続的な供給及び利用に関する基本合意書を締結。**金融業界で初めて廃食用油をSAF製造に供給する取組みを開始**
  - レボインターナショナルが**三菱UFJ銀行の社員食堂（全国239か所）から排出された廃食用油を収集**
  - SAFFAIRE SKY ENERGY は2024 年度下期～2025 年度初頭の生産開始を目指し、大阪府堺市で建設中の日本初となる国産SAF の大規模生産プラントにおいて、レボインターナショナルから引き取った**廃食用油を原料としてSAF を製造**
  - 日揮ホールディングスはSAF製造事業に関する**サプライチェーン全体を構築**



廃食用油の排出

三菱UFJ銀行



収集

レボインターナショナル



SAF製造

SAFFAIRE SKY  
ENERGY



航空機燃料として使用

全体のサプライチェーン構築

日揮ホールディングス

# ディスクレーム

本プレゼンテーションにより、貴社と株式会社三菱UFJ銀行の間には何ら委任その他の契約関係が発生するものではなく、当行が一切法的な義務・責任を負うものではありません。

本資料は信頼できると考えられる各種データに基づいて作成されていますが、当行はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示したすべての内容は、当行の現時点での判断を示しているに過ぎません。また、本資料に関連して生じた一切の損害については、当行は責任を負いません。その他専門的知識に係る問題については、必ず貴社の弁護士、税理士、公認会計士等の専門家にご相談の上ご確認下さい。

株式会社三菱UFJ銀行と三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社は別法人です。本資料は三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社が提供する商品・サービスについて説明するものではありません。また、株式会社三菱UFJ銀行の役職員は三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社が提供する商品・サービスの勧誘行為をすることはできません。

本資料は当行の著作物であり、著作権法により保護されております。当行の事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

Copyright 2024 MUFG Bank, Ltd. All rights reserved.

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビルディング20階

株式会社 三菱UFJ銀行 サステナブルビジネス部

当行が契約している指定紛争解決機関 一般社団法人 全国銀行協会

連絡先 全国銀行協会相談室

- 電話番号： 0570-017109 または 03-5252-3772
- 受付時間： 月～金曜日9:00～17:00（祝日、12/31～1/3等を除く）

株式会社 三菱UFJ銀行  
サステナブルビジネス部  
〒100-0005  
東京都千代田区丸の内1-4-1  
丸の内永楽ビルディング20階  
[www.mufg.jp](http://www.mufg.jp)

